

編集後記

■編集委員

委員長

藤田郁代

副委員長

立石雅子

今井智子

内田信也

宇野彰

勝木準

熊倉勇美

倉内紀子

小林範子

小城将江

鈴木恵子

関啓子

玉井ふみ

深浦順一

矢守麻奈

2012年6月15日から16日にかけて第13回日本言語聴覚学会(深浦順一会長 国際医療福祉大学)が福岡国際会議場において開催され、約2,000名の参加者が活発な討議を繰り広げました。梅雨期の開催で天候が懸念されましたが、雨天は初日のみで2日目には雲間から太陽が顔をのぞかせ、博多湾に浮かぶ能古島や志賀島を眺めることもできました。同学会の演題数は277題に及び、言語発達、失語・高次脳機能、聴覚、発声発語、吃音、摂食嚥下などの各種障害に関する基礎と臨床をはじめとし、職種連携、社会的支援、災害支援、言語聴覚士の養成・生涯教育などについて大変興味深い発表がなされ、言語聴覚障害学が今まさに進歩しつつあることを実感することができました。研究を始める動機は人それぞれであると思いますが、そのひとつに「臨床において自分が考えたことや経験を科学的に追及し、その成果を他者に伝えたい」ということがあるように思います。学会は研究成果を直接的に伝達する場として有用であり、参加者からの批判にさらされ、また支持を得ることによって研究の客観性が高まりますが、研究のさらなる進展を望むには他者が追試できるような形態で論文にまとめ発表しておくことが重要です。このような場を提供することを意図して本誌は刊行されていますので、発表者からの積極的な投稿を待ちたいと思います。

さて、今号では第1回言語聴覚研究優秀論文賞を受賞された菅野倫子氏に研究への思いとご自分の研究の意義について書いていただきました。「現場、最前線」は離島(沖縄県宮古圏域)における言語聴覚士の活動が報告されています。「原著」論文は構音障害、神経難病および認知症の認知機能、失語症の評価と治療に関するいずれも読みごたえある論文であり、これらの論文に触発されて新しい研究が各所で始まることを期待したいと思います。

(藤田郁代)

言語聴覚研究(第9巻 第2号)2012年7月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町6-29 アクロポリス東京9階

(☎03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2012, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 優) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23(振替口座00170-9-96693番)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)